

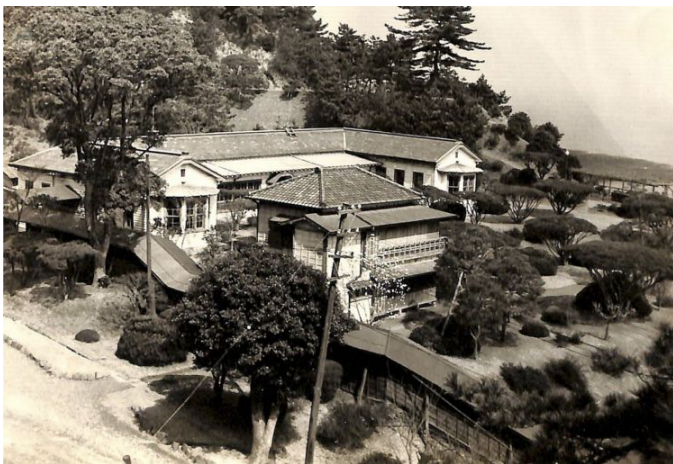


令和4(2022)年11月19日、よく晴れた秋空のもとで、旧長濱検疫所一号停留所が一般公開された。横浜検疫所の移転に伴い現状での見学会は最後となるため、多くの市民が詰め掛けた。その建物は小高い丘の上に置かれ、前庭の芝庭からはかつて眼下に海岸線が臨めたことが容易に理解できる。8つの停留室と談話室、食堂は資料展示室等に転用されているが、内外とも当時の雰囲気をよく残しており、かつての東京湾に面した長浜地区の景観記憶として存在している。土木・外構的には、裏庭の側溝の土留に目が留まる。使われた天然スレート瓦は葺き替え前の使用材とみられ、西側に接する広場には砂質凝灰岩とみられるブラフ積み擁壁と旧門柱が残る。かつてはこの門の外に官舎や湧水池があったと聞かすが、市道の新設時に完全消滅しているかは不明である。



旧長濱検疫所一号停留所 施設概要

【木造平家建て（約 420 m²）・下見板張り外壁・小波鉄板葺き屋根（一部瓦棒葺き）】
 横浜検疫所輸入食品・検疫検査センター（所在地：横浜市金沢区長浜 107-8）にあるこの旧長濱検疫所一号停留所は、日本初の検疫施設・長浦消毒所（横須賀市）からその機能を引き継いだ旧長濱検疫所のもので、創建時から通して存在する建物である。コレラやペスト等の感染症の疑いのある人を一時的に停留させるための施設として、明治 28（1895）年に建てられた。上級船客・船員らを収容するため、当時としては珍しい西洋風ホテルさながらの装飾や内装が施されていたが、大正 12（1923）年の関東大震災により甚大な被害を受け、原状回復を目指して翌年にかけて再建された。その際、屋根の仕様変更やベイウインドーの追加工事等がおこなわれたとされる。1986 年から検疫資料館として保存活用され、2018 年には登録有形文化財となったが、2022 年、横浜検疫所のみなとみらいへの集約移転を機に売却処分される予定であり、現在、別敷地への移築保存に向けて国と横浜市が協議に入っている。



一号停留所及び附属舎全景 西側より（1953 年）



海側より（1953 年）

出典：横浜検疫所 HP



南立面図



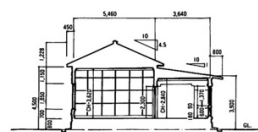
西立面図



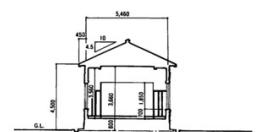
北立面図



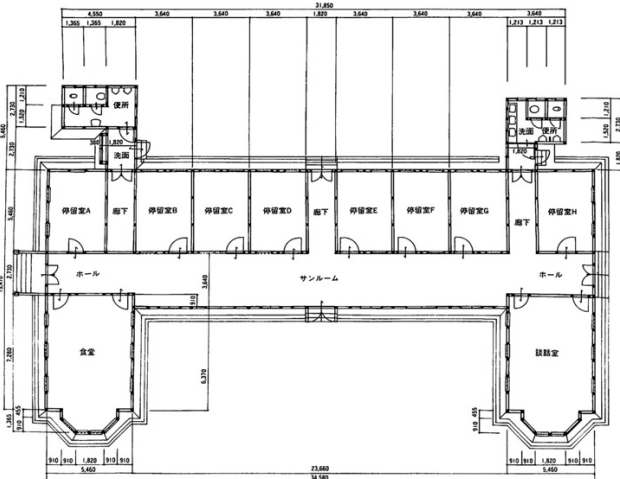
東立面図



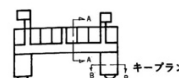
A-A' 断面図



B-B' 断面図



平面図



キープラン

一号停留所一般図

出典：建設省 昭和 61 年横浜検疫所長浜措置場建築調査記録